

事業説明会：



一方的に説明を受けるだけでなく、参加者からも今後どのように活動を展開していくか積極的な提案が出た。



県議会議長や準郡長に加え、県の教育担当官や自然資源担当官等、実務レベルの主要関係者も参加の下、開催された。

ベースライン調査：



各世帯への聞き取り調査の様子。調査助手は点在する各世帯を一軒一軒まわり、聞き取りを行った。



過去の被災時の様子やどのように対応したかなど、これまでの経験を共有する住民。



子どもを対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションにて。自分たちの被災体験や防災活動案を話してくれた。



調査助手は、毎日振り返りを行い、調査を行う上で上手くいった点や困難だった点を他の調査チームメンバーと共有した。



災害対策委員会と防災クラブの設置：



災害対策委員会の選定にあたり、まずは各村で集会を行い、事業の説明を行った。写真は集会に集まる人々。



当会の事業や防災クラブ活動の内容を説明した後、選ばれた防災クラブのメンバーと顧問の教員。

住民参加型防災計画策定：



指導者研修は、防災クラブの顧問（教員）ら向けと村の災害対策委員会向けの2種を実施。教員への研修では、実際に子どもたちと防災計画作りに取り組む活動を実演しながら進めた。



指導者研修の後、村の災害対策委員会のメンバーは村人と一緒に実際に各村の防災計画を策定する。写真は防災計画策定の材料となる村内の危険な場所のマッピングをしている様子。

その他：



在ウガンダ日本国大使館委員レオナルド氏が事業モニタリングの一環として県役所を訪れた際の様子。県議会議員や教育担当官らから、事業における協力について説明が行われた。



ボランティアへのオリエンテーションの様子。11人のうち、2人が主に学校での活動を担当し、残り9人が村での活動をサポートする。